

5 業 務 概 要

○ ウイルス課

ウイルス課では、感染症や食中毒に係る病原微生物の試験検査を実施しました。

また、感染症発生動向調査及び感染症流行予測調査(日本脳炎及びポリオ感染源調査)を実施し、感染症の動向を総合的に把握しました。

令和6年度の検査状況は、表1に示すとおりです。延検査項目数は、2,274件でした。

表1 ウイルス課試験検査(令和6年度)

項 目		検 査 件 数				延検査項目数
		行政検査	依頼検査	調査研究	小 計	
食中毒・感染症集団発生調査		261			261	1,009
A 型 肝 炎		4			4	8
リ ケ ッ チ ア		78			78	156
重症熱性血小板減少症候群		48			48	48
急 性 脳 炎		3			3	15
エ イ ズ (HIV 検 査)		1			1	2
風 し ん ・ 麻 し ん		15			15	45
デ ン グ ・ チ ク ン グ ニ ア ・ ジ カ		6			6	14
エ ム ポ ッ ク ス		1			1	1
原 虫 (水 道 原 水)		1			1	2
新型コロナウイルス次世代シーケンス		159			159	159
感 染 症 発 生 動 向 調 査				94	94	441
感染症流行予測調査	ポ リ オ 感染源調査			36	36	277
	日 本 脳 炎 感染源調査			80	80	80
そ の 他		9				17
計		586	0	210	787	2,274

1 行政検査

(1) 食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例

令和6年度は、23事例261検体(便166、拭き取り75、提供食品残品20)について調査しました。食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例とウイルス検出状況について、1事例1検体からサポウイルスGⅡ.5と9検体からノロウイルスGⅠ.1、1事例3検体からノロウイルスGⅡ.4、5事例12検体からノロウイルスGⅡ.7、10事例63検体からノロウイルスGⅡ.17、1事例1検体からノロウイルスGⅠ.1と1検体からノロウイルスGⅡ.17の陽性を確認しました。

(2) A型肝炎検査

A型肝炎疑い患者1事例(4検体)について、RT-PCR法及び遺伝子解析法による検査を実施し、1事例(4検体)の陽性を確認しました。

(3) リケッチア検査

日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチア疑い等患者の検体について、リアルタイムPCR及びPCR法による検査を48事例(78検体)について実施した結果、つつがむし病2事例(4検体)、日本紅斑熱18事例(26検体)の陽性を確認しました。

(4) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)検査

SFTS疑い患者の検体について、RT-PCR法による検査48事例(48検体)について実施し、4事例(4検体)の陽性を確認しました。

(5) 急性脳炎検査

急性脳炎疑い患者の検体を、RT-PCR法による検査を1事例(3検体)について実施した結果、ウイルスの検出はありませんでした。

(6) エイズ(HIV検査)

佐賀県特定感染症検査事業のHIV抗体検査実施マニュアルに基づき、血清1検体について二次スクリーニング検査(ELISA法)及び確認検査(イムノクロマト法)を実施した結果、1検体の陽性を確認しました。

(7) 風しん・麻疹

風しん及び麻疹疑い患者の検体について、リアルタイムRT-PCR法による検査を5事例(15検体)実施した結果、風しん及び麻疹ウイルスは検出されず、1事例(3検体)からは水痘帯状疱疹ウイルスが検出されました。

(8) デングウイルス・チクングニアウイルス・ジカウイルス検査

デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルス疑い患者の検体について、リアルタイムRT-PCR法による検査を3事例(6検体)実施した結果、2事例(3検体)からデングウイルスの陽性を確認しました。チクングニアウイルス及びジカウイルスの検出はありませんでした。

(9) エムボックスウイルス検査

エムボックス疑い患者の検体について、リアルタイムPCR法による検査を1事例(1検体)実施した結果、エムボックスウイルスは検出されませんでした。

(10) 原虫(水道原水)検査

簡易水道の水道原水1検体について、クリプトスポリジウム及びジアルジアの顕微鏡学的検査及びRT-PCR検査を実施した結果、原虫は検出されませんでした。

(11) 新型コロナウイルス次世代シーケンス検査

新型コロナウイルスの次世代シーケンス検査は、県内医療機関で採取された陽性検体や福祉

施設等で採取された検体のうち、159 検体についてゲノム解析を実施し、157 検体の系統分類を実施しました。

事例・資料編:佐賀県における新型コロナウイルス検出状況(令和6年度)参照

2 調査研究

(1) 感染症発生動向調査事業

7 病原体定点など(表 2)から、令和 6 年度は 94 検体が搬入され、疾患名はインフルエンザ、咽頭結膜熱及び手足口病などでした。

検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス、エンテロウイルス属及びアデノウイルス等でした。

事例・資料編:佐賀県感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況(令和6年度)参照

表 2 病原体定点の分類別医療機関数

	インフルエンザ	小児科	基 幹
医療機関数	5	2	6

(2) ポリオ流行予測調査(感染源調査:環境水からのポリオウイルス分離・同定)

ポリオウイルスについて、環境水(下水)からの濃縮・分離・培養・同定の調査を 6 月から 11 月の 6 か月間にわたって調査しました。その結果、ポリオウイルスは検出されませんでした。エンテロウイルス属やアデノウイルス等が高率に検出され、感染症発生動向調査の対比データとなりました。

(3) 日本脳炎流行予測調査事業

日本脳炎ウイルスに対する豚の感染状況を分析し、その流行を推定することを目的として、ブタ 80 頭について日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査(感染源調査)を実施しました。

事例・資料編:感染症流行予測調査事業における日本脳炎感染源調査概要(令和6年度)参照

3 精度管理

検査の信頼性確保を目的として、外部精度管理に参加しました。

- (1) 厚生労働省外部精度管理事業「麻しん・風しんウイルスの遺伝子解析」
- (2) 国立感染症研究所「令和 6 年度新興再興感染症に対する検査対応初動訓練」
- (3) 国立感染症研究所「2024 年度ウイルス分離培養・同定技術実態調査」

4 倫理審査委員会の開催

令和 6 年 6 月 26 日に佐賀県衛生薬業センター倫理審査委員会を開催し、委員長及び迅速審査を行う委員を選出しました。